

令和5年5月1日



園 長 免出 智美

アンケートの一部を

紹介します。

新緑の青葉にすがすがしさを感じる時期になりました。園庭では、水あそび、泥んこあそび、虫探しと夢中になって遊んでいます。「この虫は何の虫かな?調べてみよう。」と図鑑を見たり「見て!こんなに虫おった。」とバケツにダンゴムシをいっぱい捕まえ誇らしそうに自慢したりと、遊びの中にたくさんの学びが見られます。入園、進級して1か月が過ぎ、新しい環境や気候の変化での疲れが出てくる頃でもあります。ご家庭でも健康には十分に留意して

いただくようお願いします。

5月行事予定			
月		曜	行 事 予 定
5	6	土	お弁当の日
	13	土	保護者交流会(うさぎ組)
	15	月	わらべ歌アドバイザー来園 (どんぐり・たけのこ・りす組)
	16	火	全国一斉園庭開放 身体測定(O・1・2 歳児) 観音中学校職場体験
	17	水	園庭開放 身体測定(3・4・5 歳児)
	19 20 22	金土月	お弁当の日
	24	水	芋の苗植え
	26	金	春の遠足(ひかり組)
	27	土	保護者交流会(りす組)
	30	火	・ 春の遠足(うさぎ組)
	31	水	春の遠足(そら組)
			※変更の場合あり

園で目指す子どもの姿

「子どもの<mark>主体性</mark>を尊重し、自分で考える子ど もを育む」

〇自然の中でゆっくり育つ

自然の中で五感をフルに活用して実体験に、学ぶ 時間を十分に保障する生活を大切にした保育活動 をしていく。

○肯定的に導く

子どものありのままの姿を肯定的に認めていく。

〇子どもの主体性を育む

子どもの気持ちが決まってから大人が援助してい き子どもの自己決定を支えていく。

〇危機意識

子ども自身が危険を察知して予知、回避する力を つけていくよう保育者が先回りして危険を全て取 り除いていかないよう、失敗は最良の経験だと捉 えて育ちを支えていく。

そら組の保護者交流会

- ○女の子、男の子の保護者に分かれて悩みを共感したり、色々 な意見交換でとても参考になり安心しました。
- 〇みんなで仲良く遊んでいたこと。たまに言い合いをしている 場面もありましたが、順番を守れたり、貸してあげたりと人 間の成長がみられました。
- 〇帰宅後、以前は質問してもわからないと答えていたのが今回 は色が変わるのが楽しかったと教えてくれました。

子育てについて悩みを話し合ったり、園庭ではしゃぼん玉遊び、泡遊びから混色の泡遊びをしました。大きなしゃぼん玉づくりに何度も挑戦する姿、赤と黄を混ぜると橙になると混色の変化を楽しんだりと思い思いに楽しんでいました。

*お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

☆主体性が求められる訳☆

子ども達が活躍する 20 年後は AI の時代です。スマホがなかった時代とある時代が大きく変わったように AI が活躍する時代は更に変化が早く、現代と大きく変わっているはずです。誰でのできることは AI がします。人間の仕事は人間にしかできない人間力に集中し、想像力、判断じぶんの力、感性の必要な芸術力、喜怒哀楽のある人間力と良い関係を築くコミュニケーション力などが大切となってきます。

☆主体性=自分の人生の主人公は自分☆

主体性を育てるとはどういうことでしょう?主体性は「主体的に生きる」「主体的に取り組む」と使います。主体的に生きると、好きなことや得意なことはどんどん育ちます。苦手なことはそれなりに育ちます。樹に例えるといびつな年齢の樹になりますが、得意も不得意もあるけれど自分は自分でいいんだ!失敗もするけれど自分らしく生きていいんだ!良い子でないとダメということはないんだ!という人生の根本を乳幼児期にしっかり育てていきたいですね。

参考文献:主体性を育む保育(岩城敏之)

任の1枚)

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「**何を感じ**」「**気付き**」「**理解できる**」ようになるのか、「**試す**」「**工夫する**」「**表現する**」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけ



どんぐり(O歳児)・たけのこ(1歳児低月齢)「くるくる~どんどん!」

色々と試しながらやってみる中で、様々なことが遊びへと繋がっていきます。 くるくると回してみたり、下に打ちつけたりすることで自分が働きかけたこと への反応を、目と耳で捉えて遊んでいました。遊びの中で見る、聞く、触れる などの感覚の働きを豊かにしていきます。

たけのこ(1歳児高月齢) 「考えてやってみる力」

新しい道具に興味を持ち、自分からやってみようと意欲的に遊ぶ姿が見られています。保育者は開けようとしている子どもの姿を信じて待ち見守ることで挑戦する姿を尊重します。難しくても保育者に伝えれば助けてくれる安心感の中で新しいことに挑戦します。遊びの中で道具の使い方や両手を使ってバランスを取るなどの生活に必要な動きも学んでいきます。



りす(2歳児) 「どこを持って進む」

自分よりも重たいタイヤを持ち上げることは、腕の力だけでなく、足腰の力もいります!全身を使って持ち上げ、たった時には『できた!』と達成感も感じています。その達成感は次の遊びにも繋がっていき、"タイヤを押す"という動きに繋がっていきます!物のバランスも感じながら、ゆっくり押してみたり、手で支えてみたりと考えながら遊んでいます!色んな感覚を使って遊ぶこと色んな体の使い方を楽しんでいます!

うさぎ(3歳児) 「救急隊ごっこ」

リズムでボートをした後、園庭でボートを作ろうとブルーシートで海を、箱 椅子や木片でボートに見立てています。最初はボートを作る目的で遊んでい ましたが、子どもたち同士でやりとりや世界観が広がると自然と救急隊ごっ こに発展させながら自分たちなりに楽しさを一緒に味わっています。





そら(4歳児) 「小さな科学者達 ~膨らむ好奇心~」」

「きょうもしゃぼんだましたい!」「おっきいのつくってみる!」昨日の楽しみが今日の意欲や好奇心に繋がっています。天気や光の当たり方次第で、色々な表情が見られ「にじいろになった」「とうめい!」と角度によって色が変わった事にも気が付き、想像力や科学的なものの見方なども養われています。

ひかり(5歳児) 「鬼の散歩道を進むと…!」

経験してきたことを思い出しながら保育者や子ども達と伝えあいます。鬼が城で、「え?どっちだったけ?」「これで合ってたっけ?」と思い出し、その都度みんなで相談しながら記憶を確かにしていきます。新緑のさわやかな自然の中で、伝え合ったり協力し合ったりしながら、広大な景色を目の前にし達成感を味わっていました。

